

府中市立図書館サービス状況調査票
令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

基本方針	提供するサービス	事業内容	指標	(参考) 令和5年度実施事業の評価				令和6年度実施事業の評価					
				実績	評価	今後の方向性	委員の意見等	実績	評価	今後の方向性	委員等の意見		
1 市民の生涯学習を支える図書館	(1) 貸出し・閲覧サービス	ア 幅広い分野の資料をバランスよく揃え、魅力ある書架を構成し、貸出し・閲覧サービスを行います。 イ 利用者の求める資料を探しやすいように配架し、読書を楽しむ十分な閲覧スペースを設けます。 ウ 未返却資料がある利用者には、貸出しの制限を行い、利用の公平性を保ちます。 エ 市内に活動拠点を置く団体やグループが、より多くの資料を活用できるよう団体貸出を行います。	・所蔵資料数（図書、雑誌、視聴覚資料、マイクロフィルム） ・貸出数（図書（雑誌含む）、視聴覚資料） ・電子書籍サービス（タイトル数、ログイン数、閲覧貸出数）	・所蔵資料数 図書1,572,175冊 雑誌1,394タイトル 視聴覚資料66,797点 マイクロフィルム4,000点 ・貸出数 図書・雑誌1,639,619冊 視聴覚資料135,377点 ・電子書籍 タイトル数11,933点 ログイン数25,318回 閲覧貸出数34,011点	B	・魅力ある書架を構成するために不用となった資料（情報が古くなったものや状態の悪いものなど）を整理し、利用者のニーズを考慮しつつ、資料の充実を図った。 ・電子図書館に子ども向けの読み放題コンテンツを購入し、さらなる利用拡大を図った。	・幅広い世代の多様な興味や関心、課題解決に役立つ資料の充実を図り、引き続き、利用者のニーズを考慮しながら、紙媒体と電子媒体のバランスを考え、蔵書を構築していく。 ・学校でも利用しやすい電子コンテンツの拡充を検討する。	貸出し・閲覧サービスを支えるのは、豊富な情報と居心地の良い空間、そして利用者サービスを支える図書館職員が存在である。府中市立図書館はこれらが揃っており、評価したい。 蔵書については、これまでの積み重ねも含め、豊富な資料群を収集し提供している。令和5年度も書籍資料を含めると30,000冊近い資料が新たに加わった。新鮮な資料の補充は、利用の活性化を促すことにつながる。それを可能にするのは資料費の確保である。毎年減少傾向にあるが、資料費の充実に努めてもらいたい。 非来館型サービスとして電子書籍の提供も始まり、ログイン数も増えている。電子書籍の特性（音声読み上げなど）を活かし、今後も充実に努めてもらいたい。また、利用方法を高齢者や子どもにも周知する必要がある。なお、電子書籍の費用対効果については、常に意識してもらいたい。 除籍処理については、「府中市立図書館資料保存基準」及び「府中市立図書館図書資料等除籍要綱」に則り、適切に行われている。	・所蔵資料数 図書1,582,419冊 雑誌1,363タイトル 視聴覚資料67,152点 マイクロフィルム4,000点 ・貸出数 図書・雑誌1,544,933冊 視聴覚資料120,227点 ・電子書籍 タイトル数13,176点 ログイン数28,508回 閲覧貸出数38,708点	B	・魅力ある書架を構成するために不用となった資料（情報が古くなったものや状態の悪いものなど）を整理し、利用者のニーズを考慮しつつ、資料の充実を図った。 ・教育委員会が実施している、不登校の児童・生徒を対象とした仮想空間（VLP）の中に、電子図書館のリンクを貼り、児童・生徒が図書館で利用登録をしながら電子書籍を読むことができるようID・パスワードを発行した。 ・市立小・中学校においてタブレットで電子書籍を読んでもらうため、電子書籍のID・パスワードを全児童・生徒に一斉配布する準備を行った。また、子ども向け読み放題コンテンツの拡充を図った。	・幅広い世代の多様な興味や関心、課題解決に役立つ資料の充実を図り、引き続き、利用者のニーズを考慮しながら、紙媒体と電子媒体のバランスを考え、蔵書を構築していく。 ・電子図書館の学校連携事業が開始されるに伴い、市立小・中学校における授業や朝読書、自宅での学習等において積極的に利用してもらうため、電子書籍の子ども向けコンテンツを充実させる。また、その活用方法についてVRを行っていく。	昨年の評価でも指摘したが、貸出し・閲覧サービスを支えるのは、豊富な情報と居心地の良い空間、そして利用者サービスを支える職員の存在である。府中市立図書館には、それが揃っており評価したい。 蔵書数の多さが府中市立図書館の魅力の一つである。様々な年代、興味・関心に応じられるよう、引き続き幅広い図書資料の所蔵に努めてもらいたい。それを支えるのは、資料費であり、一定額を確保している点も評価する。 今後更現状の水増しを維持してもらいたい。 一方で、充実した蔵書は読書に興味・関心のある人や、調べ目的の人にとっては魅力となるが、図書に関心のない人もまだいる。蔵書の充実と併せて、子ども・親子を対象としたイベント、学校での読書活動の充実に資する取り組みなど、子どもの頃から読書に親しむ機会を作ることが大切である。また、話題の映画・ドラマ等に関連した特集など魅力的な企画の実施、市が企画するイベントなどの展示コーナーの設置、それに対する広報を積極的に行うなど、市民が府中の図書館に行きたくなくなるような働きかけが必要である。 電子書籍の提供も順調で、ログイン数も増えている。今後もコンテンツの拡大に努めてもらいたい。なお、電子書籍の費用対効果については、常に意識する必要がある。電子図書館は、24時間利用可能で、利用者の利便性が大幅に向上する効果もある。一方で利用できる資料の数が限られていること、インターネット環境がないと利用できないこと、そして資料の保存ができないことなどの不利な点もあるので、使い方の講座などを開催し、分かりやすく周知するようにしてもらいたい。 市立小・中学校の児童・生徒がタブレットで電子書籍を読むことができるようになったことに期待すると同時に、活発に利用されるように各学校で使い方のレクチャーを徹底してほしい。また、VLPの中に電子図書館を置いた、電子書籍を読めるようにしたことはとてもよかった。居ながらにして、読むことのできる電子書籍の活用は児童の読書の量と質を高める可能性もあり、時間を有効に活用できることが必要である。また、電子図書館を使って子どもが外せずに図書の世界に接することができることは有意義である。 なお、電子書籍では味わえない本の魅力もある。その点を子ども達に伝えていくことも図書館の大切な仕事であることも抑えておいていただきたい。 他市との共同利用協定は利便性が高く、効果的で市民にも喜ばれているので、範囲を拡大することも検討してもらいたい。 ※VLP…インターネット上に構築された3次元の仮想空間で、パソコンやタブレットなどの端末を通して、アバターを操作し、コミュニケーションをとることができる教育支援ツールのこと。利用者の日常的な利用を想定し、様々なコミュニケーション機能を実装している。
		(2) 予約・リクエストサービス	ア カウンターや電話での予約に加え、OPAC（オンライン蔵書目録検索システム）やインターネットからの資料の予約など、利用者のニーズに合った予約方法を選択できるように環境整備に努めます。 イ 利用者が望む資料について、可能な限り迅速な資料提供を行います。 ウ 所蔵していない図書や雑誌へのリクエストは、購入及び他自治体の図書館などのネットワークを活用した相互貸借を行うことで、利用者の資料要求に応えます。	・リクエスト受付件数（図書、雑誌、視聴覚資料） ・都内公立図書館からの借用件数 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数	・リクエスト受付件数 総数590,249件 （内訳）図書527,836件 雑誌27,814件 視聴覚資料34,599件 ・都内公立図書館からの借用件数8,251件 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数138件	B	・インターネットによる国会図書館、都外公立図書館所蔵資料の借用受付を開始し、利用者の利便性を向上に努めた。	リクエストの受付件数も回復してきている。特にインターネットからのリクエスト申込み件数が増加しており、利便性が向上している。また、他の図書館からの相互貸借も適切に行われており、利用者の情報要求に応えている。今後も他市図書館との連携の拡充に努めてもらいたい。 インターネットによる検索・予約の拡充は時代の趨勢といえるが、高齢者などのインターネット利用に慣れない人々への配慮も必要である。 また、インターネットによる検索は特定の情報について即座に結論を得ることが出来るが、膨大な蔵書を目の前にすることで、関連する領域の深淵なる知識を発見することができる。膨大な蔵書の存在やそれを活用することの意義を多くの市民に知ってもらうために図書館の存在を説く機会も重要である。 予約が多数入っている本は順番が早く回ってくるような工夫をしてもらいたいという要望はある。キャンセル総数が一桁程度あり、その点も踏まながら対応に努めてもらいたい。 他自治体の図書館向け遠隔貸借サービスについての検討が始まっており評価できる部分なので、実現を目指してもらいたい。	・リクエスト受付件数 総数566,128件 （内訳）図書508,731件 雑誌25,789件 視聴覚資料31,608件 ・都内公立図書館からの借用件数8,932件 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数110件	B	・大学図書館、専門機関等への紹介状のオンライン申請を開始し、利用者の利便性向上に努めた。	リクエストの受付件数は、だいぶ減少している。Webによるリクエスト件数も減少しており、気になる点である。貸出点数が減っているのでもそれに連動した結果ではあるが、他の図書館からの借用件数が約700件増えており、市民の要望により把握することが必要である。また、リクエストをスマートフォンから行う場合、画面表示が小さいことや遷移の際にログアウトしてしまうなど使いにくい点がある。使い方の改善や丁寧な説明に努めてもらいたい。 遠隔貸借サービスは、著作権処理のその後を注視し、引き続き実現に向けて対応してもらいたい。	
		(3) レファレンスサービス		ア 図書館資料のほか、オンラインデータベースやインターネットを活用して的確なレファレンスを行うことによって、市民の暮らしの中での課題解決にに応え、調査研究や学習を支援します。 イ 館内カウンターのほか、電話や電子メールなど、利用者のニーズに応じて幅広く窓口を設けることにより、レファレンスサービスを行います。 ウ 中央図書館は、地区図書館で受ける解決困難なレファレンスを支援します。	・相談受付件数 ・市民向けレファレンス講座の回数 ・職員向けレファレンス研修の回数	・相談受付件数5,361件、1日平均件数約16.6件 ・レファレンス講座1回実施 参加人数29人「関東大震災から100年～首都直下地震への備えについて考える～」 ・レファレンス研修5回実施	B	・職員のスキルアップを図り、市民からの様々な相談に対応できた。	レファレンスサービスは、図書館だからこそ提供できる公共サービス（市民サービス）といえる。中央図書館の専用窓口や検索レスキュー等は有効であり、相談件数が増加してきている点は評価したい。しかし、まだ認知不足であり、広報・PRにも力を入れてほしい。市民が主体的に学習活動をする上でも資料の探し方などで支援することが必要である。また、利用者に対してこのような有効なサービスがあることを、来館者にも非来館者にももっと広報する必要がある。 市民向けレファレンス講座や図書館職員向け研修会の実施は評価できるが、市民向けレファレンス講座の開催回数及び参加者数が少ない。生涯学習協議会との連携等で課題やテーマ設定をしてはどうか。図書館ならではの学習支援活動の展開ができと思う。 レファレンス事例については、国立国会図書館のレファレンス協同データベース（※1）への登録や、プライバシーに注意しながらパスファインダー（※2）などにして公開すると役立つと同時にレファレンスサービスのPRにもなる。 なお、地区図書館でも相談はあると思うが、記録がないので、今後は記録を残すなどの対応を望みたい。	・相談受付件数4,100件、1日平均件数約12.8件 ・レファレンス講座1回実施 参加人数28人「府中のことば～東京のなかのことばの地域差とは～」 ・レファレンス研修4回実施	B	・職員のスキルアップを図り、市民からの様々な相談に対応できた。 ・レファレンス講座は当日のキャンセルが多かったため、参加者数が昨年度程度であるが、申込受付後数日で定員に達した。	相談件数は減少している。インターネットや生成AIなどで簡易な調べものは済むようになり、相談件数の減少は府中市だけでなく全国的な傾向である。ただし、インターネット等を活用しても解決に至らない事例も多く、そのようなことに対応できるレファレンスサービスの役割についてより周知してもらいたい。また、レファレンスサービスは図書館が提供できる専門性の高いサービスである。相談件数の減少は、利用者自身の探す力が付いてきたともいえるが、利用者自身ではどうしても偏った見方をしてしまう場合もあり、図書館職員が専門性を活かしてサポートする意義は大きい。また、ハイブリッドな情報活用で「探す力」のある図書館職員を求めているとも言える。図書館職員のサポートによって、市民が誇りを持って「わがまちの図書館」と実感できるようにすることに期待したい。 市民向けレファレンス講座は、一回行われた。「調べ方」や「情報検索」のコンテンツやテクニックを学んでもらうという重要な役割を担っていることが、それがスタートに広わってこいた場合もある。調べ方のスキルを身につけるための講座であることが分かり易く示す必要がある。たとえば、「調べたい（図）」とか「こんな見つけ方あります」とか、平易なキャッチコピーを前面に押し出す方法もある。開催回ごとに特集するテクニックやスキルを変えるなどの工夫もほしい。また、テーマ設定は、一般教養講座的なものだけでなく、例えば、コミュニティの活性化を検討する際、自治会や町会で様々な情報を知る必要があるが、その情報を収集するための具体的な切り口となるテーマを設定するなど、府中市が示す生涯学習の方向性に沿うことも必要であろう。 子ども達が自分で調べものをする経験を得ることは大切であり、子どもによるレファレンスサービスの活用事例などを紹介し、子ども達に調べもの楽しさを伝える取り組みも必要であろう。 なお、レファレンス事例については、国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの登録が令和5年度、令和6年度と0件であった。パスファインダー（調べ方案内）として公開できる事例もあるのではないかと。
				(4) ビジネス支援サービス	ア ビジネス関係資料コーナーを設置します。 イ 資格取得やキャリアアップのための資料及び情報を提供します。 ウ 市の産業振興部門などと連携し、産業活動や起業に関する資料及び情報を提供し、地域活性化を側面から支援します。	・ビジネス支援に関する講座の回数	・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新聞図書やチラシ等を取得し、配架することができた。 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価は高かった。 参加人数43人「はくのある仕事」 ・情報が古い・複本など、適切な除籍を引き続き行った。	B	・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新聞図書やチラシ等を取組を評価したい。ただ、コーナーがありながら、あまり目立たないため、企画展示を行うなど、目立つ工夫が必要である。 また、IT、特にAIの発展は経済・産業構造に大きな影響を及ぼしている。近時ではホワイトカラー層の労働環境の変化が指摘されてきており、地域においても自主学習を必要とする人が増えていくことになる。特に、起業を目指す人や、中小・個人企業への対応も必須であり、こうした労働・経済環境への対応を明示的に支援するプログラムが必要である。 その点、ビジネス講座に43名が参加したことは評価できる。チラシ配布にとどまらず、講座も関連部署と連携しての実施や、ビジネス講座の出張開催を検討しても良い。 なお、ビジネス支援の場合、資料の鮮度是大切で、適切な除籍を行ったことは評価したい。また、ビジネス支援図書館推進協議会へ参加することも有効である。	・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新聞図書やチラシ等を取組を評価したい。また、適切な除籍を引き続き行った。 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価は高かった。 参加人数43人「未来につながるお米の話」 ・情報が古い・複本など、適切な除籍を引き続き行った。	B	・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新聞図書やチラシ等を取組を評価したい。また、適切な除籍を引き続き行った。 ・しごと情報コーナーに関連する一般書架に、しごと情報コーナー周知の表示を作成するとともに、コーナーの配架を工夫し、利用の向上に努めた。 ・商工会議所や関係機関と連携を図り、チラシや企業情報の充実を図る。 ・企業からの就職情報提供を幅広く求める。	近年、ビジネスへの関心も拉がりをみせている。幅広いビジネス支援が必要であり、特に図書館では地域の中小企業や個人事業主向けの情報発信・情報提供も必要である。 また、ビジネス支援の場合、資料の鮮度は大切で、適切な除籍を行ったことは評価したい。ビジネス講座の開催が好評で、参加者の評価も高かった。特に今、高まりをみせるリスキリング※の動きなどを敏感に捉えながら他とは違う、図書館独自のビジネス講座が増えたと、「仕事に役立つ図書館」として利用の拡大につながると思う。ビジネス講座担当職員の負担が適直にならない範囲で、講座の実施回数を増やすことも検討してもらいたい。 「しごと情報コーナー」のガイド表示や商工会議所やビジネス支援を行っている団体などの関係機関との連携によってチラシ等の配布強化に努めている点は評価したい。なお、チラシ等の配布に留まらない連携事業があってもよいのではないかと。 また、コーナーがありながらあまり目立たない。企画展示が同時に行われるなど、目立つ工夫が必要であろう。 ※ リスキリング…企業が従業員に新たなスキルを身につけさせる取り組みや、個人がキャリアチェンジのためにスキルを学び直すこと。

府中市立図書館サービス状況調査票
令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

基本方針	提供するサービス	事業内容	指標	（参考）令和5年度実施事業の評価			令和6年度実施事業の評価			
				実績	評価	今後の方向性	実績	評価	今後の方向性	
1 市民の生涯学習を支える図書館	(5) ハンディキャップサービス	ア 図書館利用に障害のある市民にも利用しやすいよう、施設や機能を整備するとともに、きめ細やかな人的支援を行います。 イ 大活字本や点字図書、録音図書などの様々な資料を収集し提供すると同時に、全体的なネットワークを活用して利用者の幅広いニーズに応えていきます。 ウ 通常の活字による読書が困難な方へ、電子書籍などのアクセシブルな資料を提供するほか、対面朗読のサービスを行います。 エ 高齢や心身の障害など様々な理由で図書館に来ることが困難な方に、資料を郵送や宅配するサービスを行います。 オ 子どもたちが自分にあった方法で本の楽しさに出会えるように、布の絵本やさわる絵本、LLブック（写真や短い文章などを用い、読みやすく工夫されている本）などの様々な資料を収集し、「りんごの棚」として設置します。	・大活字本、点字図書、録音図書、布の絵本、さわる絵本、点字雑誌の所蔵数 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成） ・宅配貸出数（図書・雑誌・視聴覚資料） ・郵送貸出数（録音図書・点字図書） ・布の絵本、さわる絵本等の展示の回数	・蔵書数 大活字本3,626冊 点字図書701冊 録音図書924冊 布の絵本109冊 さわる絵本201冊 点字雑誌360冊 ・ボランティア活動 対面朗読302回 録音図書作成数9タイトル 布絵本作成数5タイトル ・宅配貸出数1,860点 ・郵送貸出数1,158点 ・特集展示1回	・大活字本は古くなったものなどを除廃しつつ、新しく刊行されたものを継続して購入して、利用者に提供することができた。 ・録音図書や布の絵本の作成をボランティアと協働して行った。録音図書の蔵書数が減っているのは、カセットテープの録音図書で古くなったものを除廃したためである。 ・図書館利用が困難な方に対して、対面朗読、宅配業務、郵送業務を継続して実施することができた。 ・地区図書館の巡回展示を行うことで利用者の拡大に努めた。 ・特集展示として心身障害者福祉センター「きずな」で1か月間に渡り、布の絵本、さわる絵本を展示した。	・大活字本、点字図書、録音図書、布の絵本、さわる絵本、点字雑誌など様々な資料の収集を継続して行う。 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成）については、対面朗読や資料の作成を継続して実施する。令和6年度新たな音訳ボランティアを採用しついで、技術向上のための講座を実施する。 ・郵送、宅配は、継続してサービスを実行するとともに利用者拡大のための広報活動を行う。宅配はサービスの狙いであるボランティアを継続して募集する。 ・地区図書館の巡回展示や心身障害者センターでの展示を通して、利用者の拡大に努める。また、中央図書館にある大活字本の一部を地区図書館に置くことで利用者の増加を図る。	・ボランティア団体と協働が維持されており、本の宅配、録音資料の作成などが適切に実施されている。 ハンディキャップ資料の出張展示も良い取組であった。他の施設でも実施できると良い。 ボランティアを養成する各種講座が好評であるとは望ましい。受講対象者の希望する分野を検証し講座企画や開講回数についても拡充されることが望まれる。特に音訳ボランティアの養成に係る講座については、継続・拡充することにより一層の音訳サービスを実施できるようにする。 ハンディキャップサービスの充実に向けて、読書バリアフリー推進計画の策定の検討、認知症の高齢者が安心して利用できるような認知症バリアフリーの取組を推進してほしい。 中央図書館でのハンディキャップサービスは充実してきているが、地区図書館での大活字本などは少ない。また、対面朗読、宅配・郵送サービスについても地区図書館や障害者団体、学校を通じてすべての生徒たちにも図書館のハンディキャップサービスを周知するなど、より一層の広報が必要である。 対面朗読をするボランティアは多いが録音図書を作るボランティアがなかなか育っていない。また、対面朗読の回数も多いものの、利用している人数自体は決して多くないので、より多くの人が利用できるようにサービスの周知・広報の徹底が求められる。 ハンディキャップサービスという名称は、利用者側にハンディキャップがあるという考え方を基に使われていた名称であるため、「読書支援サービス」などといった名称への変更を検討してほしい。 広報に関しては、他の図書館の成功事例から、障がい者団体や医院などと連携してのアウトリーチ型の広報が有効なアプローチだと思われる。	・蔵書数 大活字本3,698冊 点字図書717冊 録音図書938冊 布の絵本112冊 さわる絵本201冊 点字雑誌371冊 ・ボランティア活動 対面朗読252回 録音図書作成数13タイトル 布絵本作成数3タイトル ・宅配貸出数2,011点 ・郵送貸出数1,161点 ・特集展示1回	・大活字本は古くなったものなどを除廃しつつ、新しく刊行されたものを継続して購入して、利用者に提供することができた。 ・録音図書や布の絵本の作成をボランティアと協働して行った。 ・図書館利用が困難な方に対して、対面朗読、宅配業務、郵送業務を継続して実施することができた。 ・地区図書館の巡回展示を行うことで利用者の拡大に努めた。 ・特集展示として心身障害者福祉センター「きずな」で1か月間に渡り、布の絵本、さわる絵本を展示した。	・ボランティア団体との協働が維持されており、適切な対応がなされている。宅配・郵送サービスも適宜行われていて評価したい。引き続きボランティアの協力も得て、サービスの充実に努めてもらいたい。 ハンディキャップ関連の資料やサービスの存在を知らない市民も多いと思う。例えば、より多くの視覚障害者に知ってもらうために、市内の眼科クリニック等の医療機関と連携して広報してはどうか。 心身障害者福祉センター「きずな」で、布の絵本やさわる絵本の特集展示が行われたことを評価する。他の施設でも行えるように。また、子ども発達支援センター「はばたき」でも展示が行われていて評価したい。「はばたき」でも電子図書館利用の紹介が必要であろう。 また、国の「読書バリアフリー基本計画」は、2025年4月から第2期がスタートした。府中市としても、「読書バリアフリー計画」の策定を検討してもらいたい。 なお、「ハンディキャップサービス」という名称は、近年あまり使われなくなってきた。今後の課題として名称変更も視野に入れてもらいたい。
		ア 外国籍の方が自国についての情報や日本で暮らしていくための知識が母語で得られるよう、英語、中国語、ハングルなどの資料を収集し提供します。 イ 外国籍の方に対してわかりやすい館内サインの掲示や、利用案内を行います。 ウ 日本人が外国語を学ぶために役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料を収集し提供します。	・外国語資料のタイトル数	・外国語資料13,547タイトル ・外国語資料分償届及び分償資料名等連絡票の案内用英訳を作成した。 ・特集展示1回 ・図書館だよりでの外国語資料紹介を行った。	・例年どおり、外国語資料の収集、提供を行い、外国の方の図書館利用促進を図ることができた。	・引き続き外国人だけでなく外国語を学ぶ日本人にも役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料収集に努める。また、外国語資料の特集展示の回数を増やし、利用促進を図る。	・外国語資料13,619タイトル ・特集展示1回	・例年どおり、外国語資料の収集、提供を行い、外国の方の図書館利用促進をさらに拡充することができた。	・外国人だけでなく外国語を学ぶ日本人にも役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料収集をさらに拡充して行う。また、外国語資料の特集展示の回数を増やし、利用促進を図る。	外国語資料も若干ではあるが増えている。外国語の雑誌・新聞に関しても、各種取り揃えて提供されており評価する。特集展示は、多文化サービスのPRになる。1回行われたことは評価するが、より利用を喚起するための工夫を今後も続けてもらいたい。 在留外国人は、国の想定を越えて増えており、訪日外国人旅行者数も増加の一途を辿っている。日本のグローバル化はトレンドの一つである。図書館サービスについても、引き続き、多言語の対応の充実や、市民の国際理解を進める企画（多文化理解、語学等の講座など）に取り組んでもらいたい。また、外国籍の方でも分かりやすい「やさしい日本語」を活用した取り組みも進めてはどうか。
(6) 多文化サービス										
	(7) 学習・文化活動の支援	ア 市内の大学や企業、団体と連携し、様々なテーマの講座の開催や資料の展示などを行います。 イ 市内に活動拠点を置く団体に資料の貸出しを行うことにより、団体が行う読書会や勉強会などの活動を支援します。 ウ 学習室、読書室を整備し、市民の学習環境を提供します。 エ 子どもから高齢者まで幅広い年齢に向けた読書活動を促進するとともに読書への関心が高まるような事業を展開します。	・図書館講演会の回数 ・ワークショップ、朗読会等の回数 ・企画テーマ展示の回数 ・団体貸出の団体数、貸出数 ・学習室等の利用人数	・図書館講演会4回（参加者：延べ136人） ・ワークショップ・朗読会4回実施（参加者：延べ54人） ・図書館ガイドツアー10回（参加者：延べ24人） ・図書館員体験ツアー6回（参加者：延べ53人） ・本探しのパートナー「OPAC検索案内」60回（参加者：延べ51人） ・図書館探検隊4回（参加者：延べ36人） ・企画テーマ展示93回 ・団体貸出 49団体 6,318冊貸出 ・学習室の利用人数 108,494人 ・グループ研究室の利用件数 114件 ・研究個室の利用人数 3,050人 ・新たに3階メディア通り特集棚を増設したことにより企画テーマ展示を増やし、利用者が展示資料を手に取りやすい環境整備を行った。	・講演会・イベントについて、コロナ禍前の通常の募集人数・回数に戻して開催できた。 ・ラベンダーワールドカップに併せ、市内トップチームと連携し、特集展示を行った。 ・団体貸出について、継続して貸出を行い、読み聞かせや読書会などの支援を行った。 ・座席申込システムの導入により、オンラインで学習室などを予約できる環境が周知されたため、利用者数の増加となった。 ・自糸台コミュニティ協議会及び自糸台文化センター主催の「敬老の集い」の中で「おとなのためのおはなし会」を実施し、延べ64人の参加があった。	・幅広い年齢の方が読書や図書館に関心を持てるよう、魅力ある講座や展示を開催する。 令和6年度は市政70周年や女子野球タウンに関連したイベントの実施について検討する。 ・座席申込システムについては利用者の声や利用状況を見ながら、予約時間枠などの運用について適宜見直しを行う。 ・団体貸出について、継続して実施していく。	・図書館講演会4回（参加者：延べ213人） ・ワークショップ・朗読会6回実施（参加者：延べ161人） ・図書館ガイドツアー10回（参加者：延べ20人） ・図書館員体験ツアー6回（参加者：延べ50人） ・本探しのパートナー「OPAC検索案内」60回（参加者：延べ59人） ・図書館探検隊4回（参加者：延べ34人） ・企画テーマ展示110回 ・団体貸出 55団体 5,967冊貸出 ・学習室の利用人数 108,494人 ・グループ研究室の利用件数 172件 ・研究個室の利用人数 3,403人	・市制70周年記念として、著名な児童作家を講師とする講演会をコンベンションホールで開催できた。 ・市を活動拠点とする読売ジャイアンツ女子チームと連携し、特集展示を行った。 ・市制70周年に併せ、府中をはじめとした、多摩地域、東京地域の特集展示を行った。 ・団体貸出について、継続して貸出を行い、読み聞かせや読書会などの支援を行った。	・幅広い年齢の方が読書や図書館に関心を持てるよう、魅力ある講座や展示を開催する。 PFAフットサル女子ワールドカップの開催に併せ、府中アスレティックFC女子チームと連携した展示イベントの実施について検討する。 ・座席申込システムについては利用者の声や利用状況を見ながら、予約時間枠などの運用について適宜見直しを行う。 ・団体貸出について、継続して実施していく。	昨年度に引き続き、多彩な講演会、ワークショップ、企画展示が行われており、興味深い内容も多く評価したい。市制70周年の記念講演会もよかった。また、図書館ガイドツアー、図書館員体験ツアー、本探しのパートナー、そして図書館探検隊など参加してみたくな企画がありよかった。今後もタイムリーで魅力的なイベントを企画してもらいたい。 府中市立中央図書館の特徴は、学習室を確保している点である。長年続いて行われている事業であり恩恵を受けた人も多い。学習室のオンライン予約も定着してきている。多くの利用者が使える学習室の設置を高く評価したい。研究個室の利用も増えており、図書館を“場”として活用することが定着してきている。貸出冊数等が減少している中、“場”としての図書館の役割が大きくなっていると感じる。 人生100年時代ということで、やりたいことへの探求が高まり、引き続き生涯学習の観点から、趣味や実益などの学びを奨励するために、年代に合わせて多種多様な催しを設定してもらいたい。たとえば、時事的な問題に即応するテーマ（高齢者・福祉・自然環境・水害・防災など）の情報を分かり易くする展示コーナーなどがあってよいのではないかと。 講座については市民の意識を刺激し、学習の場に容易に参加できる機会があることが望ましい。その機会の設定と目的を積極的に広報すべきである。

府中市立図書館サービス状況調査票
令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

基本方針	提供するサービス	事業内容	指標	(参考) 令和5年度実施事業の評価				令和6年度実施事業の評価			
				実績	評価	今後の方向性	委員の意見等	実績	評価	今後の方向性	委員等の意見
子ども の 生 き る 力 を 育 み、 青 少 年 に も 魅 力 あ る 図 書 館	(8) 児童サービス	ア 魅力ある絵本やよみものなどを豊富に揃えるとともに、本の配架やテーマに沿った展示を工夫し、子どもたちが本の楽しさに出会い、自ら考え、学ぶ力を育むことのできるサービスを提供します。 イ 読書相談や子どもたちから寄せられるレファレンスに対応します。 ウ 乳幼児期からの読書への働きかけが読書習慣を形成するうえで大切なことから、豊富な乳幼児向け資料を用意し、親子が気軽に立ち寄れる場を提供します。 エ おはなし会や読書キャンペーンなどの行事を定期的に行之、子どもたちへ本の楽しさや、本との出合いの場を提供します。 オ 健全育成及び安全性などに配慮し、子どもたちが安心して利用できる環境を提供します。 カ 子育て中の親、または育児に関わる大人が利用しやすい読書環境を整備し、子どもと一緒に本を楽しむ場を提供します。	・児童書所蔵数 ・企画テーマ展示の回数 ・おはなし会の回数 ・ブックトークの回数 ・赤ちゃん絵本文庫の回数及び登録者数 ・児童向けイベントの回数 ・おすすめ図書リストの作成数 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数	・児童書所蔵数 359,196冊 ・企画テーマ展示 16回 ・おはなし会 中央：86回 延べ1,067人 地区：288回 延べ1,735人 ・ブックトーク 4回 延べ20人（中央） ・赤ちゃん絵本文庫 36回 886人登録 ・児童向けイベントの回数 中央：6回 延べ1,127人 地区：53回 延べ4,218人 ・おすすめ図書リストの作成数 新規2種 継続6種 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 5回 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントのうち1回中止） 延べ103人 ・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」の策定	A	・各種イベントについて、概ね大きな制限なく実施することができた。 ・地区図書館では、各施設等のイベントと連携した事業を展開し、参加者の増加に寄与することができた。 ・市内関係部署と連携し、令和6年度から令和11年度までの6年間を計画期間とする「第5期府中市子ども読書活動推進計画」を策定した。	・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き読書環境を整備し、おはなし会や読書キャンペーンなど、子どもと本を結ぶための魅力ある取組を行う。 ・地区図書館では、施設のエイベントと連携した事業を行う。	・児童書所蔵数 362,423冊 ・企画テーマ展示 17回 ・おはなし会 中央：85回 延べ974人 地区：288回 延べ1,869人 ・ブックトーク 3回 延べ15人（中央） ・赤ちゃん絵本文庫 36回 966人登録 ・児童向けイベントの回数 中央：5回 延べ1,350人 地区：52回 延べ3,965人 ・小さい子のおはなし会の際に、絵本の紹介等のプロ講座と、乳幼児と保護者が隔り、気兼ねなく館内に滞在できる親子DE読書タイムを実施した。（中央） ・おすすめ図書リストの作成数 新規2種 継続6種 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数 12回 延べ116人	B	・対象年齢ごとに、各種イベントを実施することができた。 ・地区図書館では、各施設等のイベントと連携した事業を展開し、おはなし会等の参加者の増加に寄与することができた。	児童サービスについては、中央図書館、地区図書館ともに多彩な事業が行われている。おはなし会は当然ながら年齢にあった企画を行っており、参加者も増えている。「親子DE読書タイム」も子育て支援につながる取り組みとして評価したい。昨年度同様に子ども読書活動推進委員会の取り組みも適切に行われている。今後もおはなし会を地区図書館と文化センターの協力・連携によって行う事により参加者を増やすことができると思う。 子どもと本を結ぶための魅力ある取組に期待していて、府中市立小中学校教育研究会図書館研究部などと連携して、子どもと本の結びつきを強めてもらいたい。
		(9) ヤングアダルトサービス	ア 中学生・高校生世代に、日常生活や成長過程に沿ったテーマの資料を揃え、読書への働きかけを行います。 イ 青少年世代同士の情報交換の場を設けます。	・企画テーマ展示の回数 ・青少年向けイベントの回数	・企画テーマ展示 5回 ・夏休みキャンペーン「My Favorite Things×ラグビーのまち府中へ君にパス！繋げよう「お気に入り」ボール〜」 延べ30人※明重中学校2年生と協働	B	・中学、高校生世代に役立つ資料を揃え、読書への働きかけを継続して行う。 ・青少年向けのイベントを実施し、図書館利用へつなげる。	進学や塾での勉強、また部活などで自分の興味や趣味が広がる年代であり、図書館離れが起きる世代でもある。しかし、彼らの状況を受け止め、彼らの感性にあった資料やイベントを行うことで、図書館を居心地の良い場所として捉え、利用を拡大することができる。中高生世代と協働した取組なども有効であり、当年度もそのような取組が行われたことを評価する。今後中高生で図書館のイベント企画に携わってみたい人を公募したり、図書館がボランティアの体験を経験する機会を増やしたりしてもらいたい。 なお、中高生世代の「不読」（特に高校生は不読率5割）がよく指摘される一方で、よく本を読む中高生の姿や声はあまり表に出てこない。部活をやっているも受験勉強をしながらも本をよく読む中高生の読書術などを積極的に発信する必要がある。 多感な中高生世代に図書館利用の有効性を説く機会は重要である。社会に生きる知識を学ぶには自分で検索し、自分で知識に辿り着く過程が如何に重要であるかを知らせることも必要である。ネット検索で容易に結論だけを得ても蓄積されるものは限りがある。目前の直接的結論ばかりではなく、多様な情報の中から最も適切な答えはどれかを探る過程が大切であると知ってもらうために、人と人との接触による学習は不可欠である。また、ネットで得た知識をどのように活用するかということも知るべきである。図書で得たネット情報であれ、そこで得た知識をいかに活用するか、そのためには適切な助言が必要である。図書館の企画として支援が出来るイベントがあることが望ましい。 中高生を特に「ヤングアダルト（※4）」と分類してサービスを提供することは、特に不読率が高く、本を読まなくなってしまう傾向のある世代であるため、必要であるが、「ヤングアダルト」という名称はあまり一般的ではなく、当事者にとっても自分たちのことを表しているという意識も希薄である可能性があるため、「ティーンズ」などの名称に変更を検討しても良いのではないかと。また、当該コーナーの場所・蔵書内容については中高生世代自身の意見を参考にして、工夫することが重要と考える。 ※4 ヤングアダルト…子どもと大人の中間に位置する中高生世代を中心とした若者たちを表す図書館用語。一般的に図書館離れが進む世代と言われているため、個別に分類してサービスを充実することが考えられています。（「第5期府中市子ども読書活動推進計画」内、令和5年度調査より：不読率、小学生3%、中学生7%、高校生52%）	・企画テーマ展示 5回 ・市制施行70周年記念読解きイベント「消えゆく図書館と謎の未来日記」公演型延べ465人、周遊型延べ927人※市立中学校の職場体験生にストライプを体験してもらい、難易度や改善点について意見をもらった。	A	・それぞれの取組を通じて、中学、高校生世代へ読書の働きかけを行うことができた。特に市制施行70周年記念の読解きイベントでは、普段図書館に来ない層への図書館の利用へとつながった。
学校支援サービス	(10) 学校支援サービス	ア 学校図書館にある資料で解決できない調べ学習の課題などに、資料提供やレファレンスにより支援します。 イ 学級貸出を行い、資料の支援を行います。 ウ 学校からの要請で、まちたんけんや社会科見学、中学生などの職場体験などの受入れを行います。	・学級貸出の貸出総数、1クラス平均冊数（小・中学校） ・まちたんけん、社会科見学などの受入人数 ・職場体験受入人数	・学級貸出 貸出総数 12,618冊 1クラス平均冊数 小学校：26.3冊 中学校：4.3冊 ・まちたんけん、社会科見学などの受入人数 中央：2回 地区：15回 ・職場体験受入人数（中央）10校35人 ・職場体験受入人数（地区）9校38人	B	・学級貸出及びまちたんけん、社会科見学などの依頼については、例年どおり対応できた。 ・引き続き、まちたんけんや社会科見学、職場体験等の受入れを行い、子どもたちの図書館に対する理解を深め、利用の促進に努める。	学級貸出数及びクラス平均冊数も増えてきている。また、まちたんけんや社会科見学で職場体験の受入れも各館で行われていることを評価したい。 学校図書館の機能と市立図書館の性質の違い及び活用方法や提供されるサービスについて周知する必要がある、正確に理解してもらうために見学の受け入れは非常に重要である。職場体験に実施した生徒には、問題解決の道筋探しや図書の選定作業も体験させると有意義である。 学習支援の観点から教員との連携事業（例えば、調べ学習の情報共有等）や、学校司書に対する研修事業へのバックアップなどサービスの強化に取り組んでほしい。 （9）のヤングアダルトサービスとの連携で、学校図書館と協力して中高生世代の意見を聴取してニーズなどを汲み取っていく必要がある。 また、電子図書館についても、学校との連携を模索しながら、引き続き学校図書館を支援する重要な機能として考えてもらいたい。	・学級貸出 貸出総数 11,225冊 1クラス平均冊数 小学校：26.3冊 中学校：0.6冊 ・まちたんけん、社会科見学などの受入人数 中央：4回 地区：17回 ・職場体験受入人数（中央）6校22人 ・職場体験受入人数（地区）8校20人 ・小学校出張おはなし会 8回1校（中央） ・小学校出張ブックトーク 2回1校（中央） ・「ふちゅう電子図書館」の学校連携用アカウントのテスト校での試験実施 小学校2校 中学校1校	A	・学級貸出セットの見直しを行い、学校図書館の支援に努める。 ・引き続き、まちたんけんや社会科見学、職場体験等の受入れや、出張おはなし会やブックトーク等のアウトリーチ活動を行い、子どもたちの図書館に対する理解を深め、利用の促進に努める。 ・「ふちゅう電子図書館」と学校との連携において、テスト校での試験実施を行い、そこでの課題を反映し、全校実施のための準備を進めることができた。	「まちたんけん」や社会科見学、また、各図書館での職場体験の受入れも行われている。新たな取り組みとして「小学校出張おはなし会」や「小学校出張ブックトーク」が行われたことを評価する。 また、「ふちゅう電子図書館」の学校連携を模索する取り組みとして、テスト校での試験実施も行われ、その成果を期待したい。特に、印刷資料と電子書籍のハイブリッドな学校支援に期待している。 学校貸出しの期間が6週間と長く、時間をかけて調べ学習や読書に取り組むことができる。 小学校では図書委員会の活動を通して読書活動を推進していて、電子書籍の冊数が増えて、児童や教員から喜びの声があがっている。印刷資料も電子書籍も含めて、傍らに読みかけの本を置くという指導に役立っているという声もある。 「全国学力・学習状況調査」の結果から家にある本の冊数が多い児童・生徒ほど、各教科の正答率が高いという結果が出ている。家庭における蔵書数、新聞を読む機会が減っている中で、学校図書館や公民館図書館の果たす役割は大きい。引き続き、図書館が学校図書館との連携・支援を行い、学校司書対象に魅力的な学校図書館を作るための研修会の実施や、電子図書館の充実、まちたんけんや職場体験への協力など、学校図書館の支援に取り組んでもらいたい。

府中市立図書館サービス状況調査表

令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

基本方針	提供するサービス	事業内容	指標	（参考）令和5年度実施事業の評価				令和6年度実施事業の評価					
				実績	評価	今後の方向性	委員の意見等	実績	評価	今後の方向性	委員等の意見		
3 情報化社会における市民の情報拠点となる図書館	(11) 視聴覚サービス	ア 視聴覚資料は、その他の資料との関係を考慮しながら、音声・映像資料（CD、DVDなど）を収集します。 イ 映像資料の映写会の実施や視聴用機器を設置し、館内での視聴を可能にするなど、視聴覚資料ならではの様々なサービスを展開します。	・視聴覚資料の所蔵数 ・視聴席利用回数 ・企画テーマ展示の回数 ・映写会の実施回数	・視聴覚資料の所蔵数66,797点（再掲） ・視聴席利用回数7,162回 ・企画テーマ展示18回 ・映写会実施回数1回（バリアフリー上映会「アラヤシキの住人たち」：参加者19人）	B	・劣化の著しい資料を中心に、引き続き蔵書構成の見直しを進めた。 ・ナクソスミュージックライブラリーのリファラー認証導入によって、利用者の利便性が向上し、多くの利用があった。	・引き続き、音楽・映像業界の多様化等、時代の変化を踏まえつつ、図書館ならではの資料収集やサービスの展開を検討していく。 ・劣化の著しい資料を中心に所蔵資料の見直しを進め、利用者にとってより魅力的な蔵書構成を目指す。	・視聴覚資料の所蔵数67,152点 ・視聴席利用回数6,996回 ・企画テーマ展示17回 ・映写会実施回数1回（バリアフリー上映会「じんじん」：参加者26人）	B	・劣化の著しい資料を中心に、引き続き蔵書構成の見直しを進めた。 ・より多くの視聴覚資料を借りてもらうきっかけ作りとして、資料の特集ページをWebに追加導入を検討し作業を進めた。	・引き続き、音楽・映像業界の多様化等、時代の変化を踏まえつつ、図書館ならではの資料収集やサービスの展開を検討していく。 ・劣化の著しい資料を中心に所蔵資料の見直しを進め、利用者にとってより魅力的な蔵書構成を目指す。	・視聴覚資料の所蔵数が着実に増加していることは評価できる。しかし、昨年度に比べると視聴覚資料の貸出点数も視聴回数も減少している。長年、視聴覚資料の充実に努め、その所蔵数も他の図書館に比べれば多いが、作品内容や媒体が古くなっているのではないかと。劣化した資料の入れ替えなどを行い、新鮮味のある蔵書構成となるようにしてほしい。 また、スマートフォンやタブレット、パソコンでの動画視聴の普及により代替えされてしまっている可能性はある。視聴者のニーズは決められたものを見る、あるものを視聴する（テレビ等）ニーズから、興味のあるものを自由に視聴する（動画配信等）に移り変わっており、両者を選択的に視聴しているのではないかと。維持コストを考えるとサービスの方法の検討も必要であろう。	
	(12) 情報発信サービス	ア ホームページや配信メールの活用により、資料及び図書館に関する情報を迅速に利用者へ提供します。 イ 紙媒体・電子媒体の資料の整理と活用を図るため、情報検索の手段となるデータベース化を行います。 ウ レファレンスの質問や新聞記事見出しなどのデータベース化を継続し、情報提供の支援を行います。 エ 市民が利用するインターネット端末を整備し、情報収集の機会を提供します。 オ 様々な理由で図書館に来館することが困難な方などに向けて、電子図書館などの非来館型サービスを実施します。	・ホームページのアクセス数 ・データベース利用者数 ・インターネット席利用者数 ・電子書籍サービス（タイトル数、ログイン数、閲覧貸出数）（再掲）	・ホームページのアクセス数1,724,206件 ・データベース利用者数829人（うち国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧利用者110人、国立国会図書館歴史的音源利用者7人） ・インターネット席利用者数6,876人 ・電子書籍（タイトル数11,933点、ログイン数25,318回、閲覧貸出数34,011点）（再掲）	B	・ホームページを更新し、地区図書館や特集展示のイベントの情報など発信情報を充実させた。 ・市民のニーズに応じたデータベースを提供できた。 ・電子書籍サービスとして、ご要望の多かった電子書籍サービスを開始し、順調に利用いただいた。	・既存データベースの活用方法の周知に努める。新たなデータベースの導入を検討を行う。 ・電子書籍サービスの周知に努め、多くの方に利用してもらえるよう工夫をする。	・ホームページでの情報発信は適宜行われているが、アクセス件数は減っている。コロナ禍の影響や中央図書館の長期休館の影響が大きいものと判断し、令和5年度の数字がノーマルな数字と捉えた。今後も図書館のホームページやSNSを活用してイベント情報や図書館職員の仕事などのPRを情報発信していく必要がある。 電子書籍の利用は大幅に増えている。コンテンツも増えているが、コンテンツの更なる充実のリンクをお願いしたい。 データベースの利用数が増えており、有効なオンラインデータベースが導入されていると評価できる。国立国会図書館デジタル化資料送信サービスやオンラインデータベースの有効性の周知や活用方法の講座などを企画することで、より一層の利用促進につながると思う。 中央図書館も地区図書館もイベントを積極的に広報すべきである。広報は資料の展示になりがちなが、図書館の利用価値について、図書館職員が出来る支援や、図書館職員が身近な存在になることも広報すべきではないかと。実際に図書館職員として勤めているスタッフの存在についても分かりやすく伝え、その業務や、図書館の管理、補修、選書の苦勞なども知らせていく必要がある。 来館しない市民に対して、図書館の利用ガイドや学習のヒントとなる情報を発信し、来館を促してもらいたい。	・ホームページのアクセス数1,644,607件 ・データベース利用者数521人（うち国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧利用者50人、国立国会図書館歴史的音源利用者7人） ・インターネット席利用者数7,662人 ・電子書籍（タイトル数13,176点、ログイン数28,508回、閲覧貸出数38,708点）（再掲）	B	・ホームページに地区図書館や特集展示のイベントの情報を掲載して周知した。 ・市民のニーズに応じたデータベースを提供できた。 ・令和7年3月で電子図書館のサービス開始から2年が経過し、ログイン数、閲覧貸出数ともに増加している。	・既存データベースの周知を積極的に進めていく。 ・電子図書館のさらなる周知とコンテンツの充実にも努め、より多くの方に利用してもらうよう工夫をする。 ・令和7年3月で電子図書館のサービス開始から2年が経過し、ログイン数、閲覧貸出数ともに増加している。	・ホームページや『図書館だより』等による広報活動については、引き続き積極的に取り組んでほしい。ただし、内容が活字中心のデザインのように感じる。写真等の活用によりイベント等の様子が分かるようにするなど、視覚的に市民に読んでもらえる内容にしてもらいたい。市民や府中市と関係する著名人等、様々な世代、ジャンルのおすすめ本を紹介する内容を掲載するなど、本の魅力を発信するのによいと思う。 また、非来館型のサービス提供は時代の趨勢であるが、来館して学ぶこととの差を理解する施策も必要である。来館者が共通の課題で学ぶ場として、同好の士が交わる場を設ける、人と人との交流が拡大し相互に研鑽する場としての機能も検討してほしい。 地区図書館のイベントは、日頃から図書館を利用する本の好きなどにも達には分かるが、イベントの情報を知らない子ども達もいる。それを改善するため、併設されている文化センターなどと一緒に広報活動を行ったり、地区図書館職員と学校図書館職員が顔を合わせる機会をつくることも有効であろう。
4 市民の誇りとなる図書館	(13) 地域情報の提供サービス	ア 郷土資料や行政資料など地域資料の整備と活用を図り、市民及び市政への情報提供を行います。 イ 地域資料のデジタル化を実施し、紙資料の保存と資料閲覧における利便性の向上を図ります。さらに、閲覧を希望する方がいつでも活用できるよう、デジタル化した資料を著作権に留意しながら、インターネットで提供します。	・地域資料の所蔵資料数 ・地域資料の修繕数 ・「子ども府中はかせ」の発行回数 ・地域資料デジタル化点数（令和4年度開始）	・地域資料の所蔵資料数 92,524点 ・地域資料の修繕数 26点 ・子ども府中はかせ14号「府中の用水」発行 ・地域資料デジタル化点数116件	B	・難解な地域資料を、児童向けで平易な表現にした冊子を作成した。 ・8か年計画の22年目として、地域資料のデジタル化を実行した。	・引き続き、府中市に関連する資料を収集・保管する。 ・幅広い世代の利用者が触れやすい環境を整える。 ・地域資料のデジタル化を進める。	歴史ある府中市において、図書館が地域資料の収集を積極的にに行い、その組織化と提供、保存に努めている点は評価したい。特に8か年計画で進めている地域資料のデジタル化事業は高く評価するとともに、国立国会図書館と連携した取組として他の図書館のモデルになる事業である。 また、子ども向けの「子ども府中はかせ」の発行も良い取組であった。難解な地域資料を平易な表現にした冊子を作成したことは好ましいことである。子どもだけでなく多くの世代の市民が地域の情報を容易に理解するために有効だろう。この冊子で提供される情報は既成の地域資料に限らず、実際に市民や団体が活動している知られざる新鮮な情報も取りまとめて提供されることが望ましい。学校との連携でも使える資料であり、今後も継続した発行をお願いしたい。 『新府中市史』刊行関連の講演会や地域関連資料の企画展示などを行い、地域の図書館としての役割を果たしてもらいたい。	・地域資料の所蔵資料数 93,583点 ・地域資料の修繕数 28点 ・子ども府中はかせ1～10号改稿・製本 ・地域資料デジタル化点数107件	B	・平成23年から令和2年に発行した子ども府中はかせを改稿し、製本した。 ・8か年計画の13年目として地域資料のデジタル化を実行した。	・引き続き、府中市に関連する資料を収集・保管する。 ・幅広い世代の利用者が、地域資料に触れやすい環境を整える。 ・地域資料のデジタル化を進める。 ・『新府中市史』刊行を利用者に周知するため、展示等を検討する。	・地域資料の収集とデジタル化において着実な成果を挙げている。歴史ある府中市において、図書館が地域資料の収集を積極的にに行い、その組織化と提供、保存に努めている点は評価したい。特に8か年計画で進めている地域資料のデジタル化事業は高く評価するとともに、国立国会図書館と連携した取組として他の図書館のモデルになる事業である。 また、地域資料のデジタル化は、学校や家庭など、様々な場所・機会に閲覧できるようになり大変便利である。 他方で、このような地域資料の開示や利用についての啓発活動も望ましい。例えば、わがまち（自治会・町会）の歴史や由来についてのモデル展示なども有効だろう。 『新府中市史』が刊行され、さらなるデジタル化も含め、地域資料をより利用しやすくしてほしい。 また、子ども向けの「子ども府中はかせ」の改稿・製本が行われた。学校との連携でも使える資料であり、今後も継続した取り組みをお願いしたい。 観光プロモーション課や府中観光協会の「SDGs探究学習プログラム」との連携なども視野に入れ、図書館を情報拠点として、府中市の魅力を市内外にアピールしてほしい。
	(14) ボランティア活動の推進	ア おはなし会や対面朗読などの講習会を実施し、図書館や学校などで活躍するボランティアを養成します。 イ 図書館におけるボランティア活動を推進し、市民との協働を積極的に進めます。	・ボランティアの登録者数 ・読み聞かせ講習会の回数 ・おはなしボランティアステップアップ講座の回数 ・音訳ボランティア養成講座の回数	・ボランティアの登録者数 おはなしボランティア 60人 音訳ボランティア 25人 宅配ボランティア 23人 布絵本作成ボランティア 4人 ・読み聞かせ講習会 6回 延べ116人 ・おはなしボランティアステップアップ講座 8回 延べ375人 ・音訳ボランティア養成講座 8回 延べ73人	B	・市民対象の読み聞かせ講習会の応募方法について、従来の往復はがきに加え、申込み専用フォームからの受付を開始し、利便性の向上に努めた。 ・音訳ボランティアの養成については、音訳フォーローアップ講座とボランティアの方の技術向上を図ることができた。 ・宅配ボランティアについて、新規で募集を行い、担い手を確保する。	・引き続き図書館や学校などで活躍するボランティアを養成し、図書館事業における協働についても継続して進めていく。 ・音訳ボランティアについて、新規で募集を行い、担い手を確保する。	・ボランティアの登録者数 おはなしボランティア 61人 音訳ボランティア 30人 宅配ボランティア 15人 布絵本作成ボランティア 4人 ・読み聞かせ講習会 6回 延べ148人 ・おはなしボランティアステップアップ講座 8回 延べ359人 ・音訳ボランティア養成講座 10回 延べ112人	B	・市民対象の読み聞かせ講習会の応募方法について、昨年度に引き続き、往復はがきに加え、申込み専用フォームからも受付を可能とした。ステップアップ講座では、時代やボランティアのニーズに合わせて講師をお招きし、技術向上を図ることができた。 ・令和6年度には新規で音訳ボランティアの採用を行うとともに初級のボランティア養成講座を行い、技術の向上を図った。 ・宅配ボランティアについて、継続して募集しているが、利用者の住所とボランティアの方の希望する活動範囲にずれがあったため、活動を行えないボランティアの方が多かった。	・引き続き図書館や学校などで活躍するボランティアを養成し、図書館事業における協働についても継続して進めていく。 ・新規採用した音訳ボランティアについて、継続して音訳の講座を実施し、技術向上を図る。 また、若い世代がボランティアに参加しやすくなるように、講座の開講日や時間帯、方法（オンラインの併用）の検討を進めていただきたい。そもそも、講座の開催情報自体が市民に十分に周知されているとは言えないように思うので、周知方法も工夫してほしい。 宅配ボランティアは、図書館の利用ばかりではなく地域の見回り効果なども期待できる。地域の交流拡大の効果ももたらすと思われるので大いに推進してほしい。宅配ボランティアの活動が知られれば、市民が図書館に目を向ける動機づけになる。利用者が増加することを期待する。 消費税などの税金や毎年社会保険料も上がり続ける中で、実質賃金は下がりが続いている。物価は30年前の2倍、賃金はG7中で最低ランクという状況である。そのような厳しい社会情勢の中で、現役世代のボランティア活動は、なかなか厳しい状況になってきている。ボランティア活動を専断しながらも、発想を転換して、福祉関連団体等との連携・協力を促すことによって、情熱の質を高め、参加者のメリットにも繋がり、図書館サービス利用者である消費者の知的好奇心に訴求したものが作れるのではないかと。その点の検討も必要であろう。 毎年、読み聞かせ講習会を行っているが、非常に狭き門で何年にも抽選に漏れている方もいる。受講人数を増やしてほしい。 また、ボランティアの登録について、募集人数や選考方法が分かりにくいので、選考基準などを明確にしてほしい。その際、他市や他団体で読み聞かせのボランティアをやっている経験も選考時に考慮してほしい。		

その他ご意見

「3 情報化社会における市民の情報拠点となる図書館」について、「市民の情報拠点となる図書館」を実現するサービスが（11）視聴覚サービス（12）情報発信サービス であることには大きな違和感がある。（11）はデジタルコンテンツの貸出であり、（12）は図書館が提供する情報の電子化の話である。いずれも「市民の情報拠点」という役割としてはストレートには結びつかない。
これらを別の役割（基本方針）の中に分類しなおすか、あるいは、「情報化社会における市民の情報拠点となる図書館」という役割（基本方針）名を変更するかする必要がある。ただ、「市民の情報拠点となる図書館」という役割設定は、生涯学習との関連でも極めて重要と思われるので、これを残して、それを実現する機能を明らかにすべきであろう。その際、「情報化社会」とはITの利活用が進む社会であり、市民の情報拠点と言う場合には、市民が主体的にITを問題解決に使うための拠点と理解されるべきである。そうすると、考えられる機能としては、たとえば、
1 調べもの支援、情報源の多様化と提示
2 デジタル情報へのアクセス支援
3 生涯学習支援
4 地域化・国際化の支援
などが考えられ、他の施策（特にレファレンスサービス）と重なる部分があり調整が必要かもしれない。
今後、検討されたい。

令和6年度実施事業の総合所見

府中市立図書館の第三者評価として、令和6年度も14項目のサービス内容について図書館協議会の中で審議し評価した。
各委員からは、様々な評価する意見や改善案が提示された。それだけ府中市立図書館のサービスに期待するものも多く含まれ、活発な意見が交わされた。
具体的な評価内容については、各項目を参照していただくことになるが、図書館職員の方々のご努力に感謝したい。
当然ながら、評価には、今後への期待や改善点の指摘が含まれる。今回、評価二年目ということで、各委員から多くの具体的な改善案が出された。図書館の運営方針や予算の問題もあり、即対応することが難しい案件もあると思う。しかし、より良いサービスを提供するための指摘であり、図書館内での協議を踏まえ、改善できる点是对応していただきたい。
図書館の基本的な機能は情報提供である。それを支えるためには、人と情報と施設がうまく絡み合う必要がある。図書館職員を育て、情報の充実のための予算を確保し、そして市民の身近にある図書館施設を維持するため、より一層の努力をお願いしたい。
今回の評価を活かしていただき、今後も市民にとって使い勝手のよい、役に立つ図書館を目指してもらいたい。